



報道関係各位

* 本資料は兜クラブにて配布しております。

2010年4月2日
トムソン・ロイター・マーケットズ株式会社

トムソン・ロイター DEALWATCH、2009 年度の「DEALWATCH AWARDS」を発表

総合部門は発行体に「東芝」、証券ハウスに「野村證券」を選定

トムソン・ロイター・マーケットズ株式会社(東京都港区、代表取締役社長:岡村 宏太郎)の「DealWatch(ディールウォッチ)」は、2009 年度に国内資本市場において優秀な債券や株式を発行した発行体や案件を運営した証券ハウスを称える賞「DEALWATCH AWARDS 2009(ディールウォッチ・アワード 2009)」を発表しました。

DEALWATCH AWARDS は、日本関連の資本市場の育成・拡大に資することを目的に 1995 年に設置されました。「本邦市場が世界の主要市場として活躍する」という観点から、授賞の主な判断基準は「発行市場におけるプライシングが適正であったか」、「流通市場に移行した後の価格形成はどうであったか」、「資本市場の発展にどのような貢献、創意・工夫が為されたか」等となっています。

2009 年度の DEALWATCH AWARDS は、「総合」、「国内普通社債」、「地方債」、「サムライ債」、「資産担保証券」、「株絡み債」、「株式」の計 7 部門で構成されています。

賞の選考方法は、まず主幹事実績やシンジケート団参加の実績がある引受業者や投資家にアンケートを依頼し、該当会計年度の案件から各部門の受賞候補を選定します。2006 年度からは、希望する証券ハウスからの自薦を受付け、DEALWATCH AWARDS 編集部が、選定された候補案件、候補者を、独自の判断基準に則り、更に吟味・選考し、最終的に受賞案件、受賞者の決定を行っております。

2009 年度の DEALWATCH AWARDS 受賞一覧は添付資料をご覧ください。

以上

DEALWATCH について

DEALWATCH は日本の企業および地方公共団体、非日系発行体の日本国内での資金調達活動をリアルタイムにリポートする日本語のスクリーンニュースサービスです。その速報性、正確性、専門性の高さには定評があり、信頼できる資本市場情報として、市場関係者から支持を得ています。主幹事・引受等のリーグテーブルは、客観的かつ公平な指標として、発行体の主幹事選定や引受業者のマーケティング活動において幅広く活用されています。

トムソン・ロイターについて

トムソン・ロイターは企業と専門家のために「インテリジェント情報」を提供する企業グループです。業界の専門知識に革新的テクノロジーを結びつけ、世界で最も信頼の置かれている報道部門をもち、金融、法律、税務・会計、科学、ヘルスケア、メディア市場の主要な意思決定機関に重要情報を提供しています。本社をニューヨークに、また主な事業所をロンドンと米国ミネソタ州イーガンに構えるトムソン・ロイターは、100 カ国以上に 50,000 人を超える従業員を擁しています。トムソン・ロイターの株式は、トロント証券取引所(TSX 市場:TRI)およびニューヨーク証券取引所(NYSE 市場:TRI)に上場しています。詳しい情報は www.thomsonreuters.com をご覧ください。

【この件に関するお問い合わせ先】

トムソン・ロイター・マーケットズ株式会社 広報宣伝部 館 俊平(たち・しゅんぺい) 電話: 03-6441-1620

© 2010 Thomson Reuters. All rights reserved. Thomson Reuters 及び Thomson Reuters ロゴは、Thomson Reuters の商標であり、登録商標となっています。本書に言及される如何なる第三者の名称又はマークは、当該第三者に帰属します。

DealWatch Awards 2009 受賞一覧

総合部門

<Issuer of the Year>

東芝

事業会社の大型増資の口火を切る 3330 億円規模の公募増資を 1800 億円のハイブリッド劣後債と組み合わせて実施。明確なエクイティ・ストーリーは市場の評価を得た。総額 1400 億円の社債も発行するなど株式・債券市場での資金調達を行った。

<House of the Year>

野村證券

不透明な環境下でも、発行体・投資家双方との入念な交渉により、市場実勢を適切に反映した案件組成や運営を遂行。株式・債券の両市場を通じて創意工夫に満ちた案件を送り出し、発行市場の正常化や資本市場の育成に貢献した。

国内普通社債部門

<Straight Bond Issuer of the Year>

ソニー

発行総額が 375 億円にとどまった 2008 年 12 月の起債から半年後に再挑戦し、一般事業債として本年度最大の総額 2200 億円を集めた。幅広いレンジ設定など投資家を尊重した起債運営で需要を呼び込み、市場環境の好転を象徴する案件となった。

<Straight Bond House of the Year>

野村證券

1000 億円規模の大型案件で軒並み主幹事を務め、市場の完全回復への歩みに寄与した。投資家のリスク許容度の高まりに合わせシングルA格以下の銘柄も手がけ、裾野拡大にも貢献。過去最大規模の 10 兆円超に達した国内SB市場をけん引した。

<Straight Bond of the Year>

第 48 回日産自動車債（350 億円、3 年）

みずほ証券／三菱UFJ証券／日興シティグループ証券

第 49 回日産自動車債（350 億円、5 年）

みずほ証券／三菱UFJ証券／日興シティグループ証券

業績懸念が残るなか、投資家ニーズの丁寧な捕捉でリーマン・ショック後のシングルAフラット以下のホールセール向け事業会社銘柄で最大の総額 700 億円の起債に成功。国内起債市場の回復がシングルA格にまで広がったことを印象付けた。

<Straight Bond Debut Deal of the Year>

第 1 回日東電工債（500 億円、5 年）

日興シティグループ証券／野村証券

早めのマンドートアナウンスや入念なデットIRを通じて投資家への認知度向上に注力。またマーケティング期間を長めに取ることでなるべく多くの投資家の参加を促した結果、1トランシェで 500 億円の全員参加型のデビュー債となった。

<Innovative Straight Bond Deal of the Year>

第 10 回平和不動産債（70 億円、5 年）

野村証券

デットIRでの投資家の声を反映して、社債管理者を設置し、財務上の特約として担付切換条項と純資産額維持条項を付帯させて登場。非民鉄のトリプルB格銘柄が起債市場にアクセスするための道筋を示した案件となった。

地方債部門

<Local Government Bond Issuer of the Year>

神戸市

震災 15 年の節目となった 2010 年 1 月の 20 年債で、他団体との格差解消に成功した。震災の復興対策で悪化した財政を立て直すとともに、積極的なIR活動や全年限での主幹事方式の導入など、投資家を重視した地道な活動を果たした。

<Local Government Bond of the Year>

東京都公募公債第 679 回（500 億円、10 年）

ハイブリッド方式

投資家の声をプライシングに反映させるため、従来のナショナルシ団方式と主幹事方式の要素を融合したハイブリッド（融合）方式を試行。将来的な地方債の発行増を見据え、安定消化に向けて 10 年定例債の起債手法の見直しに取り組んだ。

サムライ債部門

<Samurai Bond Issuer of the Year>

ウォルマート・ストアーズ

2008 年のデビュー債以来、リーマン・ショック後大きく起債環境が変化したサムライ債市場で本年度も 1000 億円を調達。今期唯一の米国ネームであり、希少性の高い純粋なコーポレート銘柄として強い需要を集めた。

<Samurai Bond House of the Year>

みずほ証券

発行額上位のHSBC銀行やウエストパック銀行など計 22 件のサムライ債でブックランナーを務めた。強力なリサーチ体制などをバックにノンディールロードショーも積極的に手掛け、サムライ債市場の育成・発展に貢献した。

<Samurai Bond of the Year>

第1回フランス電力債（450億円、5年）

三菱UFJ証券

第2回フランス電力債（441億円、7年）

三菱UFJ証券

第3回フランス電力債（163億円、3年）

三菱UFJ証券

第1回フランス電力変動利付債（50億円、5年）

三菱UFJ証券

本年度初の事業会社によるサムライ債として、4本立てで総額1104億円を調達。政府による出資比率の高さも好感され人気化した。ダブルA格による起債再開に先鞭を付けた意義も大きい。

資産担保証券(ABS)部門

<Asset-backed Securities House of the Year>

三菱UFJ証券

本年度の住宅支援機構RMBSで6回の事務幹事実績を誇る。中でも4月の月次債とS種債の同時起債では6カ月ぶりにシ団を組成し、より円滑な案件運営を行った。その他の案件の組成やIRなどを通じ、証券化市場の回復に取り組んだ。

<Asset-backed Securities Deal of the Year>

日本生命 2009 基金特定目的会社第1回A号・B号特定社債（総額1000億円）

大和証券エスエムビーシー／野村證券

いまだ回復途上の証券化市場において1000億円の調達に成功し市場のモメンタム改善に貢献した。株式会社化の流れにある生保業界で、契約者第一の理念を貫くために現体制を維持するとの意志を示し、相互会社の資金調達力を実証した。

株絡み債部門

<Equity-linked Bond Issuer of the Year>

日立製作所

公募増資とともに1000億円の国内CBを発行するコンビネーション・オフリングを実施。パー発行に加えクーポンを付すことで投資家の需要を喚起した。中東・ドバイショックに重なる困難な状況下で資金調達を成功させた。

<Equity-linked Bond of the Year>

高島屋 2014 年満期ユーロ円CB（200億円、5年）

UBS／野村インターナショナル

ユーロ市場で約1年4カ月ぶりに投資家待望の日本ネームによるCBとして登場。希少性や流動性の高さを背景に、アウトライートの投資家などから10倍という強い需要を集めた。適正なプライシングも評価された。

株式部門

<Equity Issuer of the Year>

三井住友フィナンシャルグループ

2009 年度内に 2 度のグローバル・オファリングを完遂し、国内外の優良投資家から総額 1 兆 8200 億円を調達。優先出資証券の買入れなどの資本政策や、M&Aも合わせて評価された。

<Equity House of the Year>

野村證券

歴史的な増資ラッシュとなった 2009 年度でリーグテーブルのトップを独走。国内最大規模の株主を創出した第一生命の IPOでもブックランナーを務めたほか、CBやJ-REITも含めた株式資本市場で圧倒的な存在感を示した。

<Equity Deal of the Year>

東芝

<条件決定日 5/27> 野村證券

28 年ぶりに踏み切った公募増資は、ハイブリッド債と組み合わせた 3330 億円の大型調達となった。赤字決算と同時発表だったにもかかわらず、明確なストーリーと財務の強化が投資家に好感された。

<IPO of the Year>

第一生命保険

<条件確定日 3/23> 野村證券／みずほ証券／メリルリンチ日本証券

オファリング金額は約 1 兆円と 1998 年のNTTドコモの上場時に次ぐ規模。相互会社から株式会社への転換で 100 万人を超す国内最大の株主数を創出し、株式市場の活性化に貢献した。世界市場で注目される超大型IPOを実現させた。

<J-REIT of the Year>

日本アコモデーションファンド投資法人

<条件決定日 10/27> 野村證券／メリルリンチ日本証券

2008 年 7 月以来途絶えていたJ-REITによる再開第 1 号案件として登場。スポンサーの三井不動産から優良物件を高利回りで取得し、希薄化後も分配金を維持するという王道のファイナンスとして評価された。

<Innovative Equity Deal of the Year>

昭和電工

<条件決定日 10/13> みずほ証券

約 400 億円の公募増資と 240 億円の劣後特約付ユーロ円CBを活用したハイブリッドファイナンスを実施。成長資金を取り込む一方、財務体質改善と過度な希薄化を抑制するストラクチャーを採用した。

以上